

あますいビジョン後期計画策定にかかる懇話会(第1回)議事要旨

- 開催日時 令和6年8月6日(火) 9:55~12:00
- 開催場所 上下水道庁舎 4階 第5会議室
- 出席者 [委員(構成員)] 浦上拓也, 楢田泰子, 水谷文俊
[尼崎市(公営企業局)] 公営企業管理者, 公営企業局次長
上下水道部長, 企画管理課長, 財務課長
経営企画課長, 水道計画課長
お客さまサービス課長, 料金担当課長
水道建設課長, 水道維持担当課長
浄水センター所長

■ 会議次第

- 1 開会
 - (1) 公営企業管理者あいさつ
 - (2) 構成員・出席職員の紹介
 - (3) 懇話会の趣旨説明
- 2 会議運営
 - (1) 座長の選任
 - (2) 職務代理者の指名
 - (3) 懇話会開催スケジュール
- 3 議事
 - (1) あますいビジョン概要
 - (2) 後期計画の策定にあたって
 - (3) 適正な施設への再構築
- 4 閉会

<配布資料>

- 資料1 懇話会委員・出席者名簿
- 資料2 配席図(懇話会第1回)
- 資料3 あますいビジョン後期計画策定にかかる懇話会設置要綱
- 資料4 懇話会開催スケジュール
- 資料5 懇話会第1回資料

■議事要旨

1 あますいビジョン概要

- 委員： ビジョン前期期間の取組に関する評価は、数字で説明できない項目もあり難しいと思うが、○×評価のような分かりやすい表現で示してもよいのではないか。
- 公営企業局： 数字で表すことが難しい項目の進捗評価については苦慮しているところではあるが、全般的には計画どおり進捗していると評価しているところである。また、毎年度、○△×により進捗評価を行いホームページに公表しているので、資料提供させていただく。
- 委員： 色々な取組に対して目標を設定していると思うが、例えば水道に関しての満足度向上など、達成が難しいような定性的な目標の進捗管理に対してはどのような工夫をしているのか。また、目標の達成に向けて、部局間・部署間での連携の仕方などの工夫はあるか。
- 公営企業局： 定性的な評価としては、数年に一度アンケートを実施し市民の皆様の声を聞いているが、日常的に声を聞く機会は少なく難しいところである。
他部局との連携については、神崎浄水場の新管理棟の建築にあたって、環境への配慮の観点から、市の方針で、新たに建築物を建築する際には ZEB Ready 相当（従来の建築物で必要となるエネルギー消費量に対して 50%以上の省エネ）と目標が決まっているので、これから部局間で調整を進めていく予定である。
- 委員： 目標を設定して、それを実現するために進めるのはいいが、何が大事なのか本質を分かっただけで目標を設定していただきたい。1つ1つの目標だけをクリアするために、全体としてはよくなるようなことがないよう、全体の中で何が重要か考えたうえで、他部署や市長部局とも連携しながら進めてほしい。
- 委員： ビジョン前期のポイントは阪神水道企業団の受水量低減だと思っているが、どのような状況か。
- 公営企業局： 本市の阪神水道企業団の日最大水量が、令和5年度は約23万トンであったが、令和9年度には阪神水道企業団の猪名川浄水場のダウンサイジングが可能となり、約14万4千トンにまで低減することができる見込みとなっている。
- 委員： 今年度から水道が国交省管轄となり下水と同じ省庁が管轄することとなったが、今後、上下水が連携していくような計画はあるか。
- 公営企業局： 令和2年度から上下水道部として一体の組織となり、上下一体の会議体を設け、月1回、色々な項目について情報共有を図っているが、具体的な施策や取組のなかでの連携はなかなか見いだせていない。今後、水道施設の耐水化の取組にあたっては、下水の浸水想定や取組内容を踏まえて検討し、連携していければと考えている。

2 後期計画の策定にあたって

委員： この前期の5年間においても、新型コロナウイルスやウクライナ戦争、急激な円安など様々な外的要因の変化があり、また同時に日本の人口は減少し続けている。そのような中で、尼崎市のことだけではなく、国の新たな動き、上下水道の組織一体化で進んだ取組をしている事業者など、周囲の状況を把握しておき、何か大きな変化や動きがあった場合は、きちんと対応できるように準備しておく必要がある。

また、施設規模や能力がそれほど変わらないが、職員数は減少し、そもそも人材獲得が難しいというなかで尼崎市に来てくれるのかどうか、この5年間の職員数の動向を注視しておく必要がある。職員がおらず何もできないということになりかねないので、そのあたりの現状把握や分析が必要ではないか。尼崎市では採用面での変化などはあるか。

公営企業局： 技術職の新卒採用は難しく、中途採用も含めて非常に厳しい状況となっている。労働力の確保や雇用の柔軟性は民間のほうが数段上のため、コンセッション方式の導入について、この5年で検討する段階にはないと考えているが、今後10年20年先を見据えた長期的な課題として検討が必要と認識している。

委員： 前期計画の取組や成果をみるとよくやっていると思うが、何も問題がないかのような出し方をしすぎると、市民の皆様は問題がないように思い込んでしまうリスクがある。情報の出し方には、工夫が必要である。人材確保や物価高騰、資材価格の高騰など様々な課題に直面していることは、的確に情報を出していく必要がある。

委員： PFIなどのパッケージでの更新では、大手企業しか手をあげられず、今まで頑張ってきてくれた地元の事業者や工事会社が手をあげられなくなると思う。市職員が減少していることも大きな課題であるが、市の管工事や漏水対応でタッグを組めるような管工事組合などの事業者を育てていくことも大事であり、尼崎市を支えてもらえるような仕組みを考えておくことが必要である。事業者の状況を踏まえて、今後どのようにしていくか検討を進めていったほうがよいと思う。

公営企業局： 業者とはヒアリングを実施しており、人材確保に苦労していると聞いている。今後管工事を継続的に続けていくためにも、担い手確保に向けた取組をお互い協力して連携していきたいと考えている。

3 適正な施設への再構築

委員： 神崎浄水場を最終的にどのように使っていくのか、すべての職員を神崎浄水場に配置するのか、もしくはこの上下水道庁舎を高度化させていくのか。あまりにも1つのところに全部の情報管理を集約するのは、逆に悪い時もあり得るので、今すぐの話ではないが、検討していただきたい。

公営企業局： 基本的には神崎浄水場でメインコントロールを行うという考えはあるが、そこが被災した場合のサブ機能については、今後BCPの取組で検討していく。

- 委員： 工業用水道は全国的に見ると、ユーザーの撤退で大変な思いをしている事業体も多いが、尼崎市では経営に大きな影響を与えるような動きはなさそうであり、また三市共同施設を利用しながら各市のニーズに対して各市が責任を負っているので、現状維持の施設整備を進めるというこの計画の内容で問題ないと思う。
- 委員： 三市共同施設を今後更新していくときに、隣の市がどのように考え事業を進めているのかなど、色々なことを共有して更新工事を進めるのがよいと考えるので、西宮市、伊丹市から職員を派遣してもらうことを検討してはどうか。
- 公営企業局： 維持管理協定は結んでいるが、改築に対しての協定は今後検討を進める予定なので、人員不足となる状況も踏まえて、職員派遣についても三市で協議していきたいと思う。
- 委員： 管路更新について、人口が減少し水需要が減少していく将来において、事業費も減少していかないといけないはずであるのに、他の事業体の多くは、10年20年先に向かって事業費が増加していく、実現不可能ではないかと思う計画を立ててしまっている。そのような中で、尼崎市では事業費を平準化した計画を立てているのは素晴らしいことだと思う。さらに更新速度を落とすこともできるのか。
- 公営企業局： 現在は老朽度を一定の基準によって出しているが、今後新たなAIの活用等によって事故率が抑えられるようなことになれば、更新速度を落とすこともひとつの選択肢としてはあるかと思う。
- 委員： AI等を導入してそれらを将来の更新計画に反映させられる可能性が出てきているのは素晴らしいことだと思う。
- 委員： 尼崎市は人口が密集している地域であり、人々の生活にとって大切な水道を、隅から隅まできちんと整備しなければいけない事業体だという責任があるので、向こう何十年間も水道事業を支えていかないといけないという強いメッセージを打ち出してもらえればよいと思う。
- 委員： 管路の付属施設の寿命を出している事業体はあまりないが、付属施設が事故の原因であることも多い。これは全て状態監視で確認することができるものか。
- 公営企業局： 令和2年度から状態監視ということで、空気弁や仕切弁等の付属設備の点検を行っているが、状態の悪いものは年々増加している。増加の理由は、点検を強化したことによるもので、今後一定落ち着くとは思いますが、状態監視をきっちり行い事故を防ぐことが、水道管の寿命を保つことになると考えている。